

防災講座 2023



関東大震災から100年 ～防災研究の温故知新～

1923年に発生した関東大震災から100年が経過しました。この100年間にわが国は何度も大きな災害を経験し、防災研究は進化してきました。今回の講座では、防災研究の温故知新ということで、100年前の関東大震災の研究から、近年の東日本大震災や熊本地震を対象とした研究、そして最新のデジタル技術やAIを活用した研究を解説します。

9月7日(木) 18:30-20:00

長期的視点に立った防災・減災の必要性 ～関東大震災などによって見えてきたもの～

関東大震災は、わが国の防災対策に非常に大きなインパクトを与えました。しかし、その前にも後にも大地震は発生し、災害の新しい顔を見せてきました。すなわち、あたかも防災対策の裏をかくように新たな被害の形をもって現れました。本講座では、関東大震災を中心とした注目すべき地震災害の「顔」を概観し、今後の防災・減災のあるべき姿を考えます。

大阪公立大学 都市科学・防災研究センター 特任教授

宮野 道雄 難易度★★

9月14日(木) 18:30-20:00

災害時の地下水利用

自然災害による断水の備えとして地下水の防災利用に関心が寄せられています。それは断水に対して官民連携で地域の地下水を有効利用する取り組みであり、非常時の地下水ガバナンスといえます。特に民間井戸の活用は、その分布が広範囲に渡るため、公的な給水支援活動の補完手段として期待されています。本講座では、過去の自然災害を例に、災害時地下水利用の機能を明らかにしたのち、自治体と民間の井戸所有者の連携を進める課題を提示します。

大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 教授
都市科学・防災研究センター 兼任研究員

遠藤 崇浩 難易度★★

9月21日(木) 18:30-20:00

東日本大震災時の首都圏から学ぶ ～都市における被災と健康リスク予防の観点～

災害は人間の健康や生活基盤をさまざまな形で脅かすことが明らかになりつつあります。災害は直接的な外傷に加え、水や食料、生活環境の急激な変化や悪化により、二次的な健康リスクも増大します。東日本大震災では、首都圏においても多くの帰宅困難者、大規模な液状化被害等によるライフラインの停止など、災害は住民の生活や健康へ様々な影響をもたらしました。本講座では、人々の生活と健康の視点より、これからの都市における防災・減災の方策を検討します。

大阪公立大学大学院 看護学研究科 講師
都市科学・防災研究センター 兼任研究員

畠山 典子 難易度★★

9月28日(木) 18:30-20:00

デジタルツイン × 地震防災

国土交通省は、2020年に3D都市モデルの整備プロジェクトを開始しました。今後、様々な分野での活用が期待されています。本講座では、地震を対象とした様々なオープンデータの可視化や、AIを連携した建物一棟ずつの地震被害推定に関する最新の研究、地震時の家具転倒などによる室内被害のシミュレーション事例などを紹介します。日本全土・都市レベルから室内までのスケールでイメージを強化することにより、地震や防災行動に対する理解を深めます。

大阪公立大学大学院 工学研究科 講師
都市科学・防災研究センター 兼任研究員

金子 健作 難易度★★

時間 18:30～20:00 (受付18:00～)

会場 大阪公立大学 文化交流センター ホール
大阪市北区梅田1-2-2-600 (大阪駅前第2ビル6階)

参加費・定員 1回 500円 各回120名 (先着順)

申込方法 各講座3日前までに、下記WEBサイトまたは右記QRコードよりお申し込みください。
<https://www.omu.ac.jp/lifelong-learning/course/event-02746.html>



※ 感染症の流行や自然災害等の影響により、日程・開催方法・開催内容等が変更となる場合があります。

※ お申込みの際の個人情報、申込後の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。